

平成 1 6 年度森林総合研究所四国支所研究評議会報告

外部の有識者から四国支所の研究活動や業務運営に関して意見をいただき、今後の活動に反映
させていくために開催しているものです。

日時：平成 1 7 年 3 月 8 日（火） 1 3：0 0～1 6：3 0
場所：森林総合研究所四国支所 会議室

1. 評議会委員及びオブザーバー
委員

岡 信一	久万高原町林業振興協議会 会長	指導林家
徳岡 正三	高知大学農学部森林科学科 教授	
オブザーバー		
陶山 芳伸	四国森林管理局計画部 指導普及課長	
東 彪	高知県立森林技術センター 所長	

2. 議事次第

- 1) 開会挨拶
- 2) 出席者紹介
- 3) 支所説明
 - (1) 概要説明
 - ・ 主要行事
研究発表会（テーマ：「管理されなくなった森林のゆくえ」）、一般公開等
 - ・ 独立行政法人評価委員会林野分科会による15年度評価結果
 - ・ 独立行政法人森林総合研究所の中期目標終了時の事務・事業の見直しについて
 - ・ 次期中期計画における重点課題の検討状況
 - ・ 競争的資金応募状況
 - ・ 1 5 年度四国支所研究評議会での指摘事項に対する対応状況
 - (2) 研究の実施状況と成果
 - 「ヒノキ人工林の強度間伐に伴う落葉量の変化」
 - 「種子の散布を考慮した伐採跡地の植生回復過程の予測」
 - 「四国地方における降雨と渓流水の化学特性」
- 4) 意見交換
- 5) 講評
- 6) 取りまとめ（支所長）
- 7) 閉会挨拶

3. 委員及びオブザーバーの意見・指摘事項と対応方針

項 目	意 見 ・ 指 摘 事 項	対 応 方 針
研究 推進 につ いて	1. 地域の林業振興協議会などで、人工林の放置 が大きな問題として取り上げられるようになって きている。放置林を長伐期林分に移行させるため の、地域に適した施業モデル作りに関する研究を	1) . 次期中期計画（平 1 8～2 2 年度）の重点 課題として「管理水準の低下 した森林の修復・ 保全技術の開発」を提案している 。この中に放 置林の 施業モデル作りに関する研究を組み込ん

	進めていただければと思う。 2. 複層林や長伐期林への誘導に関する研究が進められているが、残存木の材質の変化を考慮した列状間伐や強度間伐の得失を解析するような課題を組み込むことはできないか。また、保育費の削減効果や施業の集団化のやり方などについても取り組めないか。 3. 森林・林業研究は、加工・利用など他分野との共同研究も重要と思われるがそのような取り組みを強めることは可能だろうか。 4. 研究成果の社会還元がさらに強く求められるようになり、人を見た研究の重要性を痛感している。高知県では、17年度から地域振興を視野に入れた社会学的観点からの研究にも取り組む予定である。情報交換とともに支援をお願いしたい。 5. 自然科学・技術研究が中心の研究所にあって社会学的研究を進めるのは、人数も少なく大変だが、今後も続けていって欲しい。 6. 国有林では、十分な予算はつかなかったが森林セラピーなど社会のニーズに応えるべく新たな森林利用にも取り組み始めている。これらを含め引き続き国有林を研究のフィールドとして活用し成果を上げていって欲しい。	でいきたい。 2) . 施業方式と材質との関係、保育費の削減効果及び施業集団化についても、次期中期計画の重点課題の中に組み込んでいきたい。民有林での複層林施業の普及状況を考慮すると、小面積画伐（群状、帯状）による多段林造成法も比較対象に加えていく必要があると考える。 3) . 他分野との共同研究は、課題間の関連づけや出口が明確でないと、しっかりとした成果が得られない事が多い。進行管理ができる範囲を見極めつつ、共同研究を立案し推進していきたい。 4) . 情報交換と協力を努めていきたい。 5) . 今後とも地域振興に向けた研究課題に取りこんでいく予定である。 6) . 収穫試験地の他、様々な形で国有林を研究のフィールドに使わせていただいている。今後ともよろしくお願いしたい。
広報・普及について	7. 一般の人々に研究成果を分かりやすく伝えていくのは重要だが、高度な内容をかみ砕いて伝えるにはなかなか難しい。一つの手段として、森林ボランティアのリーダーや森林インストラクターなどが集まる講演会などでの成果の紹介を積極的に行い、一般の人々への橋渡しをしてもらうやり方が考えられる。 8. ホームページを見た人からのこれまでの問い合わせと、それに対する回答を整理して、Q & A集を作ってはどうか？一般の人々の研究に対するニーズを把握するのにも使えると思う。	7) . 県や国有林が開催するリーダー養成講座などに講師を派遣するなどして、効果的な普及に努めていきたい。 8) . 助言に従って作業に取りかかる。
その他	9. 独法移行後、研究のパフォーマンスの向上や社会貢献が一層強く求められるようになってきている。時代の要請を受け止め、プラス思考でこの	9) . そのように努めていきたい。

難局を乗り切っていつていただきたい。積極的に
臨めば、それに応じた成果が得られる。